

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



ACG033-09

会場:201B

時間:5月25日 16:30-16:45

北極環境研究体制の新たな展開 New progress in the structure of Arctic Environmental Research

大畑 哲夫^{1*}, 山内 恭², 安成 哲三³, 榎本 浩之⁴

Tetsuo Ohata^{1*}, Takashi Yamanouchi², Tetsuzo Yasunari³, Hiroyuki Enomoto⁴

¹ 海洋研究開発機構, ² 国立極地研究所, ³ 名古屋大学, ⁴ 北見工業大学

¹JAMSTEC, ²NIPR, ³Nagoya University, ⁴Kitami Institute of Technology

北極域は地球の中でも温暖化が最も顕著に現れている地域であり、大気・海洋・雪氷・陸域が急速に変化している。その過去・現在・未来に関して関心が集まっている。去年以来、この北極環境研究の新たな展開に関する動きが文科省内にて始まり、地球観測推進部会の下に北極研究検討作業部会が立ち上がり、今後の北極環境研究に関する検討が始まった。去年7月の時点で示されたのは、重点研究の設定、コンソーシアムの形成、そして北極気候変動研究プログラムの新設の検討であった。その後、進捗があり、2011年4月から新しい北極地域の研究体制が敷かれようとしている(2011年2月現在)。大会発表時までの動きを含めて北極環境研究の研究者に状況を伝える。

キーワード: 北極, 環境, 温暖化, 推進体制, 雪氷圏

Keywords: Arctic, Environment, Global Warming, Promotion, Cryosphere